

平成 29 年度

教育委員会の活動状況等に
関する点検・評価報告書

平成30年12月

黒松内町教育委員会

目 次

はじめに

I 点検及び評価の趣旨	1
II 点検及び評価の概要	2
III 点検及び評価に関する実施方針	5

第1章 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議の開催・審議状況	9
2 規則・要綱等の制定及び改正等	12
3 教育委員の活動状況	13
4 教育功労者等の表彰	15

第2章 平成29年度事務・事業の点検及び評価

1 子供の未来をはぐくむ家庭教育	
① 保育・放課後児童対策事業	18
② 母子保健推進・子ども子育て相談支援事業	19
2 子供の心を育てる学校教育	
(1) 「生きる力」の育成	
① 全国学力・学習状況調査	20
② 学習支援員(特別支援教育補助員)派遣事業	21
③ 学校ICT環境整備事業	22
④ 学校施設整備事業	23
(2) 地域と共にある教育の推進	
① 青少年教育の充実事業	24
② 総合的な学習推進事業	25
③ コミュニティ・スクール導入事業	26
④ 国際交流協力員活動事業	27
⑤ 小規模学校支援事業	28
⑥ 食育振興事業	29

⑦ 学校給食センター施設等整備事業	30
(3) 負託に応える学校づくり	
① 教職員の資質能力の向上事業	31
② 学校関係者評価事業	32
3 豊かな地域をつくる生涯学習	
(1) 生涯学習の推進と文化振興	
① 地域コミュニティー振興事業	33
② 世界文化遺産・西予市交流体験学習事業	34
③ 町営塾運営事業	35
④ 文化・芸術活動の推進事業	36
⑤ 文化財の保存、活用事業	37
⑥ ふれあいの森情報館活動事業	38
⑦ ブナセンター活動事業	39
(2) 生涯スポーツの振興と健康づくり	
① 生涯スポーツの推進事業	40
② 町民体育館改修等整備事業	41
③ キャンプ場活動事業	42
4 全体評価	43

参考資料

1 教育委員会組織機構図	50
2 教育関係予算の状況	51
3 学校の児童生徒・教職員数	53
4 各施設利用者数	
(1) 総合町民センター	54
(2) ふれあいの森情報館	54
(3) ミニビジターセンター	54
(4) 各運動施設	55
(5) ブナセンター	56
(6) オートキャンプ場	56

は じ め に

I 点検及び評価の趣旨

昨今の地方教育行政を取り巻く状況は、教育基本法及び学習指導要領の改正、教育における地方分権の推進、そして教育委員会制度改革など大きな転換期を迎え、小規模な町村の教育委員会においてもその対応力が求められ、町村間での格差が生じる結果となっています。子どもから高齢者までが、教育や文化、スポーツを楽しみ豊かな暮らしを育むための施策を展開するには、総合教育会議を活用し、町長(町長部局)と教育委員会との連携が求められているといえます。

黒松内町教育委員会では、教育基本法の趣旨を踏まえ、また、教育大綱に基づき、「生きる力」の基礎となる「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」の調和の取れた教育を、学校では「みんなで支える学校、みんなで育てる子供」を合い言葉とし、「ふれあい、学びあい、支えあい」の多様な生涯学習活動を学校・家庭・地域の緊密な連携を大切にしながら、具体的な施策・事業を町の第3次総合計画に位置付け取り組んでいるところです。

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部が改正され、平成20年4月から施行、全ての教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

そのため、本町としても、同法第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様に対する説明責任を果たすため、平成20年度から「教育委員会の活動状況等に関する点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめ公表しております。

今年度の点検・評価は、「平成29年度教育行政執行方針」に掲げた主要な事務・事業について、PDCA(計画・実施・点検・改善)サイクルの理念に基づき検証いたしました。

今後も、この点検・評価による事業効果等の検証を行うことで、課題や対応方向を明らかにするなど継続的な業務の改善を図りながら、本町ならではの特色ある教育行政の推進に努めてまいりますので、町民の皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

平成30年12月

黒松内町教育委員会

II 点検及び評価の概要

1 実施の目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会であります。

その特性は、専門的な行政官で構成される事務局を多様な属性を持った複数の委員による合議により、専門家の判断のみによらない、広く地域住民の意向を反映した教育行政を実現するものです。

事務・事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）を実施することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすことを主な目的とするものです。

2 点検及び評価の対象

本年度の点検及び評価の対象事業等は、これまでの考えに基づき、平成28年度分の事業実績としました。

その対象範囲は、学校での学習指導・生徒指導に関することや社会教育に関することなど地教行法第23条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、町長の補助執行として行っている事務を含む、町教育委員会が所管する全ての事務としています。

事業のまとめ方については、「平成29年度教育行政執行方針」に基づき、町教育委員会が実施した主な施策・事業等を網羅する形で対象事業を選定しました。

3 点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、施策・事業の進捗状況を明らかにするとともに、課題等を分析し、今後の方向性を示しています。

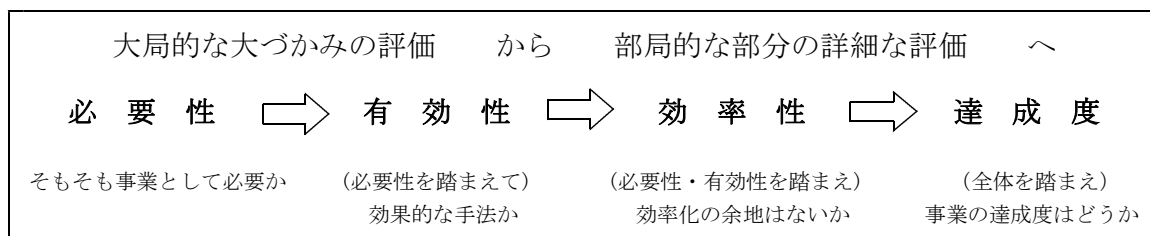
点検及び評価は、各事務事業の概要、点検による成果・課題等を基に、「必要性」、「有効性」、「効率性」及び「達成度」といった分析評価により事務事業の評価を行いました。

次に、その結果を踏まえ、「事業の規模」及び「手法の改善」という二つの観点から、当該事務事業の「今後の取組方向」を判断しました。

なお、「事業の評価」と「今後の方向性」の2段階に分けることにより、「大局から部局へ」、「現在の評価から今後の方向性へ」と、点検及び評価の論理的な流れを分かりやすくしています。

(1) 評価項目について

評価項目	検討の対象	検討の観点
必要性	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・町民のニーズや社会情勢に適合しているか ・町が事業を行う必要があるか（民間、国・道等が実施すべき事業ではないか）
有効性	事業の目的と手法（事業内容）の関係（手法選択の理念）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的に照らして効果的な手法か ・成果は、十分に上がっているか（事業目的に照らして効果的な手法であれば成果は上がるはずであり、効果的な手法か否かの客観性を確保するためには、成果を踏まえる必要がある）
効率性	事業のコスト及びコストと成果の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費削減の取り組みは十分か ・人件費削減の取り組み（委託・IT化等を含む）は十分か
達成度	町民理解と目的、目標との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の理解や満足度が得られているか ・目的、目標を達しているか



(2) 評価基準について

評価項目それぞれについて、「高い」、「やや高い」、「やや低い」、「低い」の4段階で評価することとしています。

この4段階の基準については、(1)に示した「検討の観点」（各項目二つずつ）を踏まえ、概ね次のとおりとしました。

評価の段階	概ねの基準
高い	両方の検討の観点について優れている
やや高い	どちらかの検討の観点について優れている
やや低い	どちらかの検討の観点について劣っている
低い	両方の検討の観点について劣っている

(3) 「事業の評価」と「今後の方向性」との関連について

「事業の評価」を踏まえた「今後の方向性」については、予算等の投入したコスト等の物理的規模について判断する「事業規模」の項目と、手法の在り方について判断する「手法の改善」の項目に分割し、それぞれ4段階で判断しました。

「事業規模」、「手法の改善」の各判断項目と、「事業の評価」と各項目との関連及び判断基準については、概ね次のとおりとしました。

判断項目	「事業の評価」の 各項目との関連	判断の段階	概 ね の 基 準
事業規模	主に 必要性・有効性 が関連	拡 充	必要性・有効性とも高い事業であり、今後、規模を拡充し重点的に取り組むべきである。
		維 持	必要性がやや高く、有効性も低くない事業で有り、現在の規模を維持するべきである。
		縮 小	必要性が比較的低い、又は有効性が低い事業であり、規模を縮小すべきである。
		休 廃 止	必要性が低い、又は必要性がやや低く、有効性が低い事業であり、休廃止すべきである。
手法の改善	主に 有効性・効率性 が関連	維 持	有効性・効率性とも高い事業であり、現在の手法を維持すべきである。
		軽微な改善	有効性がやや高く、効率性も低くない事業であり、概ね現在の手法で問題はないが、軽微な改善を行うべきである。
		抜本的改善	有効性がやや低い、又は効率性が低い事業であり、手法の抜本的な改善を行うべきである。
		休 廃 止	有効性が低い、又は有効性がやや低く、効率性が低い事業であり、休廃止すべきである。

Ⅲ 点検及び評価に関する実施方針

教育関係事務・事業の点検及び評価に関する実施方針

平成21年4月23日教育委員会決定

改正 平成26年6月10日

1 趣旨

黒松内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する規則（平成21年教育委員会規則第4号）第4条の規定に基づき、この実施方針を定める。

2 基本的な方針

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）が改正され、教育委員会が所管している事務の執行状況等について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされた。

そこで、当教育委員会としては、P・D・C・Aサイクル（＊）の手法を用いた事務の点検及び評価を行い、今後の施策展開の基本的な考え方や方向性などを明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資する。

3 点検及び評価の対象

点検及び評価の対象は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育委員会の活動状況に関する現状と課題
- (2) 教育行政執行方針に掲げる各種施策の実施及び達成の状況
- (3) その他点検及び評価を行うことが必要と認められる事務の実施及び達成の状況

4 点検及び評価の時期

点検及び評価は、毎年、前年度に実施した施策の達成状況等を分析するものとする。

5 点検及び評価の実施方法

- (1) 教育行政執行方針に掲げる各種施策及び主要な事業について、点検・評価調書（別記様式1）を作成する。
- (2) 教育長は、担当者が作成した点検・評価調書を基に、点検及び評価に関する報告書をまとめ、教育委員会の会議に付する。
- (3) 点検及び評価の結果については、重点施策の展開、予算編成、事務事業の見直し等の事務改善など、教育行政のあらゆる分野に反映させるものとする。
- (4) 点検及び評価を行うにあたっては、客観性を確保するため、教育に関する学識経験を有する者の意見を聞くことができるものとする。

6 点検及び評価に関する情報の公表

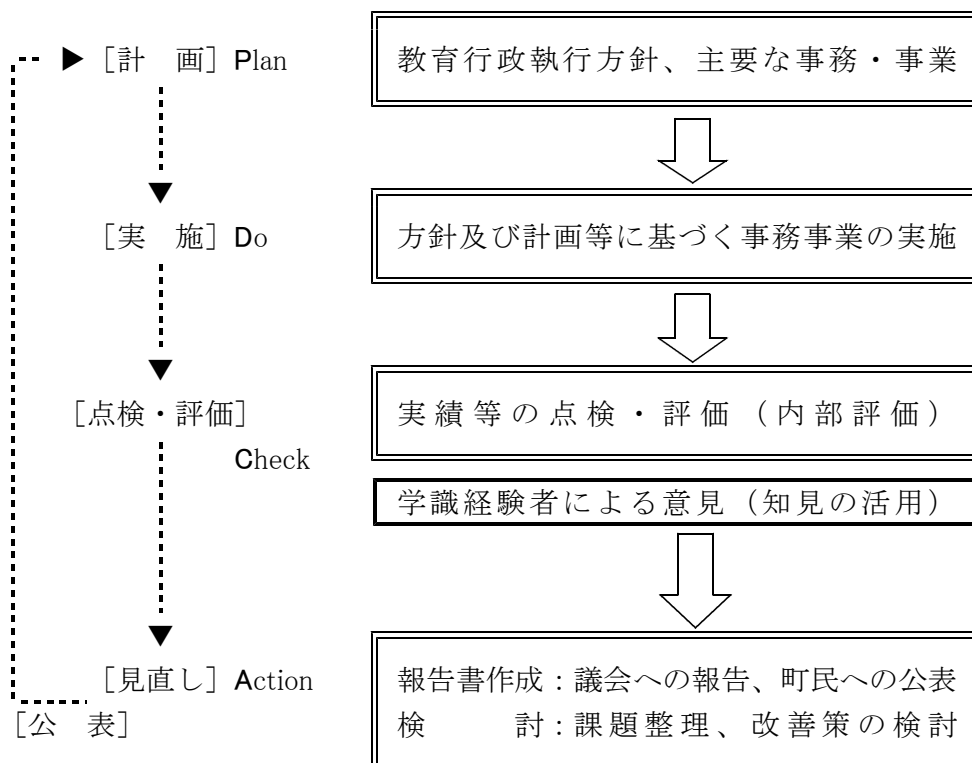
点検及び評価結果に関する情報については、議会への報告（6月又は9月）のほか、町民が容易に入手できる方法で公表するものとする。

* P・D・C・A サイクルとは？

Plan（計画）、Do（実施、実行）、Check（点検、評価）、Action（改善）の4段階のプロセスを順に実施する。

最後のActionを次のPlanに結び付けつつ、このプロセスを繰り返し実施することで、継続的な業務改善を推進していくためのマネジメント手法のことをいう。

* 点検・評価の流れ



別記様式 1

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)				項目番号	
事業費		千円	担当		
事務事業の概要	目的				
	実績				

点 検 ・ 評 価	成果					
	課題 (問題)					
	評 価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)				

そ の 他	
-------------	--

第1章 教育委員会の活動状況

第1章のポイント

教育委員会の会議の開催や審議内容、規則・要綱の制定や改正の状況、教育委員会が行った主な活動状況、教育関係者等に対する表彰などを整理しています。

1 教育委員会等の会議の開催・審議状況

黒松内町教育委員会の会議は、黒松内町教育委員会会議規則（昭和31年教育委員会規則第1号）第4条の規定に基づき招集し、開催しています。

この会議において、教育長及び4名の黒松内町教育委員会教育委員が教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則・要綱など、様々な議題について審議をしています。

開催期日	付議案件等
29. 4. 24 (平成29年第4回)	(報告) ・学校職員の採用について ・黒松内町学校給食費補助金交付要綱について ・平成29年度黒松内町立小中学校の主任等の命課について ・黒松内町立学校就学指定校の変更許可について (議案) ・黒松内町合同学校関係者評価委員の委嘱について ・平成29年度準要保護世帯の認定について ・総合体育館に勤務する職員の勤務時間に関する規程の制定について
29. 6. 1 (平成29年第5回)	(報告) ・産後休暇の承認について ・学校職員の採用発令について ・平成29年度第4地区教科書採択教育委員会協議会代表委員及び代理委員の選出について ・平成29年度準要保護世帯の認定について ・物品購入契約について ・平成28年度黒松内町教育委員会における人事行政の運営等の状況について (議案) ・平成29年度黒松内町一般会計補正予算（第1回）について (協議) ・黒松内町学校運営協議会について
29. 8. 23 (平成29年第6回)	(報告) ・育児休業の承認について ・学校職員の採用について ・黒松内町青少年問題協議会委員の委嘱について ・市町村立学校職員の平成29年6月期における勤勉手当の成績区分の内申について ・産後休暇の承認について ・平成29年度黒松内町一般会計補正予算（第2回）について ・教職員の飲酒運転根絶に向けた「決意と行動」の取組計画の策定について ・平成29年度黒松内町立小中学校の主任等の命課について ・平成29年度準要保護世帯の認定について ・黒松内町議会総務経済常任委員会所管事務の調査報告について ・学校職員の事故（交通違反）報告について (議案)

開催期日	付 議 案 件 等
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に使用する小学校用教科書図書の採択について ・平成30年度に使用する中学校用教科書図書の採択について ・平成30年度に使用する小学校用教科書図書（特別の教科 道徳）の採択について ・平成29年黒松内町教育委員会事務局職員の人事異動について
<p>29. 9. 13 (平成29年第7回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児休業の承認について ・学校職員の事故（交通違反）報告について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度黒松内町一般会計補正予算（第4回）について <p>(協議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告」への市町村別結果の掲載について
<p>29. 10. 30 (平成29年第8回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校職員の採用発令について ・黒松内町教育委員会委員の任命について ・黒松内町教育委員会教育長職務代理者の指名について ・黒松内町立学校職員ストレスチェック実施規程について ・学校職員の事故（交通違反）報告について ・平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要について ・平成28年度黒松内町教育委員会の活動状況等に関する点検・評価について
<p>29. 12. 5 (平成29年第9回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校職員の処分内申について ・学校職員の懲戒処分について ・平成29年度白井川地域教育懇談会の報告について ・市町村立学校職員の平成29年12月期における勤勉手当の成績区分の内申について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒松内町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・黒松内町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について ・平成29年度黒松内町一般会計補正予算（第8回）について ・平成30年度教育行政執行方針の骨子（案）について <p>(協議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告」への市町村別結果の掲載について
<p>30. 2. 1 (平成30年第1回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度黒松内町一般会計補正予算（第5回）について ・町民体育館建設等調査特別委員会の調査報告について ・市町村立学校職員の平成30年1月1日付け昇給における成績区分の内申について ・学校職員の事故（交通違反）報告について <p>(議案)</p>

開催期日	付 議 案 件 等
	<ul style="list-style-type: none"> ・黒松内町立学校就学指定校の変更許可について
30. 3. 1 (平成30年第2回)	(議案) <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度黒松内町一般会計補正予算(第11回)について ・黒松内町スポーツセンター建設基金条例を廃止する条例の制定について ・権利の放棄について ・平成30年度教育行政執行方針について ・平成30年度黒松内町一般会計教育関係予算について ・平成30年度黒松内町立小中学校校長・教頭の人事異動について (協議) <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度黒松内町立小中学校の卒業式について
30. 3. 27 (平成30年第3回)	(報告) <ul style="list-style-type: none"> ・黒松内町子ども・子育て会議委員について ・平成30年度黒松内町立小中学校教職員の人事異動について ・平成30年度学校職員の採用について (議案) <ul style="list-style-type: none"> ・黒松内町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について ・黒松内町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について ・黒松内町立学校における学校運営協議会設置規則の制定について ・修学旅行の引率業務等に従事する黒松内町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する訓令の制定について ・黒松内町文化財保護委員の委嘱について ・黒松内町スポーツ推進委員の委嘱について ・平成30年度黒松内町教育委員会事務局職員の人事異動について (協議) <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度黒松内町立小中学校の入学式について

黒松内町総合教育会議は、町長と教育委員会の相互連携を図り、本町の教育行政の推進に資するために平成27年度に設置されたもので、黒松内町総合教育会議設置要綱第4条の規定に基づき招集し、開催しています。

開催期日	協 議 ・ 調 整 事 件
29. 7. 27 (第1回)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会について ・当面する黒松内町教育課題について
29. 12. 19 (第2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・白井川地域教育懇談会について ・平成30年度新教育関連予算について ・当面する黒松内町教育課題について

2 規則・要綱等の制定及び改正等

平成29年度中に制定・改正等された教育委員会規則の件数は4件、教育委員会訓令の件数は3件となっています。

(1) 教育委員会規則

番 号	題 名	公布年月日	施行年月日
(30年) 第 1 号	・黒松内町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H30. 3. 28	H30. 4. 1
第 2 号	・黒松内町立学校管理規則の一部を改正する規則	H30. 3. 28	H30. 4. 1
第 3 号	・黒松内町立学校における学校運営協議会設置規則	H30. 3. 28	H30. 4. 1
第 4 号	・黒松内町立学校管理規則の一部を改正する規則	H30. 3. 29	H30. 4. 1

(2) 教育委員会訓令

番 号	題 名	公布年月日	施行年月日
(29年) 第 3 号	・総合体育館に勤務する職員の勤務時間に関する規程の制定に関する訓令	H29. 4. 24	H29. 4. 1
第 4 号	・黒松内町立学校職員ストレスチェック実施規程について制定に関する訓令	H29. 9. 28	H29. 9. 28
(30年) 第 1 号	・修学旅行の引率業務等に従事する黒松内町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する訓令	H30. 3. 28	H30. 4. 1

3 教育委員の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、町立小中学校の入学式・卒業式への参列、教育委員研修会への参加などの活動をしています。

【主な活動状況】

日 付	活 動 内 容	委 員 名
4月 3日 (月)	平成29年度教職員辞令交付式	池田委員
4月 6日 (木)	黒松内小学校入学式	池田委員
4月 7日 (金)	黒松内中学校入学式	岡久委員・金石委員
	白井川中学校入学式	岡久委員
4月24日 (月)	平成28年度教育委員会表彰式	池田委員・成田委員 岡久委員・金石委員
5月22日 (月)	後志町村教育委員会協議会総会	池田委員
5月26日 (金)	黒松内中学校陸上競技大会	金石委員
6月 3日 (土)	黒松内小学校運動会	池田委員・岡久委員 金石委員
6月 4日 (日)	白井川小学校・白井川中学校合同運動会	岡久委員
6月19日 (月)	教育委員会学校訪問	池田委員・成田委員 岡久委員・金石委員
7月11日 (火)	北海道市町村教育委員研修会	池田委員・成田委員 岡久委員・金石委員
8月12日 (土)	黒松内町成人式	池田委員・岡久委員 金石委員
10月24日 (火)	後志町村教育委員会教育委員研修会	池田委員・成田委員 岡久委員・金石委員
11月 2日 (木)	平成29年度黒松内町表彰式	池田委員・成田委員 岡久委員・金石委員
11月 3日 (金)	平成29年度文化・スポーツ表彰授与式	池田委員
11月10日 (金)	町内小中学校音楽交歓会	池田委員
3月 5日 (月)	平成29年度子ども会議	金石委員
3月15日 (水)	黒松内中学校卒業式	池田委員
	白井川中学校卒業式	金石委員

日 付	活 動 内 容	委 員 名
3月20日(火)	黒松内小学校卒業式	池田委員・成田委員
3月23日(金)	白井川小学校卒業式	池田委員・岡久委員

注1：上記のほか、各小中学校の学芸会や学校祭、授業参観へも出席。

2：教育委員会会議及び総合教育会議を除く。

3：教育長を除く。

4 教育功労者等の表彰

教育委員会では、黒松内町教育功労者表彰規則（平成2年教育委員会規則第3号）を制定し、本町の教育、文化、スポーツ等に顕著な功績があった個人又は団体を表彰しています。

平成29年度は、教育功労者表彰者はおりませんでした。

【黒松内町教育功労者表彰規則抜粋】

（表彰）

第2条 表彰は、次の各号に該当すると認められる個人又は団体をこの規則に定めるところにより表彰する。

- （1） 町の教育、文化、スポーツ等の振興に貢献した者
- （2） 町の教育機関に多額の金品を寄贈した者
- （3） 第1号に係る団体の長として連続10年以上その職にあった者

黒松内町教育功労者表彰一覧

NO. 1

【平成3年度被表彰者】				【平成10年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		氏名	職	該当条項	
谷口英夫	黒小教諭	第2条第1項		坂井弘治	黒中校長	第2条第1項	
【平成5年度被表彰者】				【平成13年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		氏名	職	該当条項	
高橋恭雄	無職	第2条第2項		国寄徳也	無職	第2条第2項	
荻野正	黒中教諭	第2条第1項		山崎徹也	黒中教諭	第2条第1項	
石村賢三	黒小教諭	第2条第1項		黒松内中学校	—	第2条第1項	
【平成6年度被表彰者】				【平成14年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		氏名	職	該当条項	
奈良正幸	公務員	第2条第1項		加藤美佐子	黒小校長	第2条第1項	
【平成9年度被表彰者】				【平成14年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		新井融	白小教頭	第2条第1項	
中村勝美	熱小校長	第2条第1項		芥藤裕	無職	第2条第1項	

【平成15年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
二階堂 則 雄	黒中校長	第2条第1項

【平成16年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
横 澤 善 秋	中小中校長	第2条第1項
西 嶋 俊 朗	白中校長	第2条第1項
伊 藤 篤	団体職員	第2条第1項
佐 藤 晴 美	団体職員	第2条第1項

【平成17年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
太 田 茂	黒小校長	第2条第1項
横 山 光	中中教諭	第2条第1項
長 谷 通 史	歯科診療所長	第2条第1項

【平成18年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
故 長谷川幸男	白小教諭	第2条第1項
山 本 光 廣	白小校長	第2条第1項
上 平 敏 和	中小中校長	第2条第1項
高 橋 護 一	無 職	第2条第1項

【平成19年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
榭 井 孝	黒中校長	第2条第1項

【平成20年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
南後志法人会黒松内地区会	—	第2条第2項
黒松内建設協会	—	第2条第2項
古 谷 智佐子	黒小校長	第2条第1項
日 村 一	白中校長	第2条第1項
高 野 秀 樹	黒中教頭	第2条第1項

【平成21年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
檜 伊佐夫	白小校長	第2条第1項

【平成22年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
長谷川 誠	黒中校長	第2条第1項
佐 竹 ひろみ	黒中教諭	第2条第1項
織 川 富 治	無 職	第2条第1項

【平成23年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
丸 口 弘 之	黒中教諭	第2条第1項
黒松内町ライオンズクラブ	—	第2条第2項

【平成25年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
小 川 末 子	無 職	第2条第3項
故 菅原 久光	会社役員	第2条第3項

【平成27年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
藤 原 正	無 職	第2条第1項
我 妻 一 子	自 営 業	第2条第1項

【平成28年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
富 田 重 義	農 業	第2条第1項
工 藤 公 宣	会 社 員	第2条第1項

第2章 平成29年度事務・事業の点検及び評価

第2章のポイント

「平成29年度教育行政執行方針」に沿った、7項目25の事務・事業について、点検及び評価を行っています。

具体的には、それぞれの取組における事業効果や課題などを客観的に分析したうえで、今後の取組方法等を整理しており、執行方針に関する最終的な評価を行ったものです。

1 子供の未来をはぐくむ家庭教育

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		保育・放課後児童対策事業		項目番号	1-①
事業費		77,330千円	担当	子育て支援	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの健やかに成長できる環境づくりと多様化する子育てニーズに対応するため、黒松内保育園等との連携を強化し、教育委員会が担当課であるメリットとして幼児期から学齢期までの連続性のある質の高い子育て対策を行う。 ○ 子育て世代の出産及び保育等における経済面での支援を行い、安心して子育てできる環境づくりを図る。 			
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育・保育給付費（利用者負担軽減分も含む） ○ 児童クラブ（39名加入（平均出席27名））・児童館運営 ○ 出産祝い金 12戸 ○ 妊産婦安心出産支援事業 14件 ○ 特定不妊治療費助成事業 6件 			

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園利用者負担の軽減や、児童クラブ活動等の取組がされ、共働き世帯の子育て環境の安全・安心等につながっている。 ○ 児童福祉及び子育て支援業務が、教育委員会に移行したことにより、今まで個別に対応していた取組が少しずつではあるが、社会教育と効率的・有機的に行うことができた。 ○ 出産祝い金の第1子からの支給制度の改正、就学前の幼児を対象とした子育て一時預かりサービスが本実施へ移行することができた。 				
	課題 (問題)	○ 各子育て支援対策の充実は必要であるが、家庭における教育力を高めることも重要であり、社会教育活動と連携し、取り組む必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 地域における子育て支援施策の充実のため、また、少子化傾向が顕著であることから、子ども・子育て会議や関係団体等からの保護者から意見、要望を聞きとりや、定期的な検証を行う必要がある。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		母子保健推進・子ども子育て相談支援事業		項目番号	1-②
事業費		13,934千円	担当者	子育て支援	
事務事業の概要	目的	○ 安心した妊娠・出産・子育てができる環境整備や、母子の健康確保を図るため、保健福祉課、保育園、学校、関係機関等とともに保健師や栄養士等によるきめ細やかな支援を実施する。			
	実績	○ 子育て世代包括支援センター設置（教育委員会内・母子保健型） ○ 妊婦健診事業、乳幼児健診事業（5歳児健診含む） ○ 乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業 ○ 地域子育て支援センター運営費補助事業			

点検・評価	成果	○ 地域全体で出産や子育て等を支援する基盤の形成を図り、子育て家庭等に対する支援活動のため、子育て世代包括支援センターがされ、成長過程に応じるための5歳児健診が2年目を迎え、また、育児不安に対する相談指導や地域子育て支援センターへの支援を継続して行い、安心した出産、子育て等の環境づくりができた。 ○ 子育て期において、地域の方々との交流が少ない家庭があることからその孤立化の解消をすべく、母子保健において父親・母親が参加しやすい集まりの場をつくることができた。				
	課題 (問題)	○ 乳幼児健診事業の受診数が少ない家庭があるため、個別訪問を取り入れることで、母子の健康確保につなげていく。 ○ 乳幼児健診や保護者からの申し出により、子育て期において特別な支援が必要である乳幼児へは、関係機関等が連携した支援体制づくり及び早期の支援実施が求められている。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 継続して乳幼児健診事業の受診数が少ない家庭や孤立化傾向の家庭に対する働きかけや支援を強化し、母子ともに健康な生活ができるよう努める。 ○ 支援が必要である学齢期・学齢期前の児童生徒に対し、学校や保育園等との情報交換からつながりある体制づくりをめざし、また、保護者への啓発事業を取組する。			

その他	○ 母子保健は、保健師業務の多様化と拡大をしていることから、一体的かつ効率的に活動するため、平成30年度から保健福祉課に集約する。
-----	---

2 子供の心を育てる学校教育

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		「生きる力」の育成 全国学力・学習状況調査		項目番号	2-(1)-①	
事業費		－ 円		担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各町村教育委員会、学校等において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、その取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。 ○ 各学校が、児童生徒個々の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善に役立てる。 				
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施期日 平成29年4月18日(火) ○ 対象人員 小学6年生 黒小 16人、白小 3人 (難人員) 中学3年生 黒中 15人、白中 1人 ○ 実施内容 国語と算数・数学について、「知識」と「活用」の2種類の問題を出題 				
点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査結果から、児童生徒個々の基礎学力・応用力、学習状況、また、学校における教育及び教育施策の成果と課題を把握することができた。 ○ 各学校において、調査結果等を分析した上で、指導計画の改善と修正を実施し、児童生徒の実態に即したきめ細かな指導など、具体的な学習の手立てや指導方法について実践することができた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査年度による学力の差が見られることから、児童生徒の実態に即した学校改善プランの修正を適宜実施し、実効性のある具体的な取組を推進していく必要がある。 ○ 児童生徒個々の学力の差が大きく、家庭での学習時間の短さなどが見られることから、家庭と連携した学習習慣、生活リズムの改善が求められる。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	手法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校が児童生徒の実態に即し、習熟度別指導などより効果的な学習活動が実践できるよう指導・助言に努める。また、小中学校時の学習面について、学校間・先生間の連携が強く求められる。 ○ 家庭や地域と連携しながら学習習慣を含む生活リズムの確立、児童生徒の自己有用感の高揚等を図る必要がある。 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成26年度から北海道教育委員会が作成し、公表する全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」に、本町の結果資料を平成26年度から引き続き掲載している。 					

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「生きる力」の育成 学習支援員（特別支援教育補助員）派遣事業		項目番号	2-(1)-②
事業費	10,676千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の基礎学力の定着を図るため、学力実態が多様な学校に対し少人数指導等を実施できるよう、また、自閉性障害等により特別な配慮を必要とする児童生徒に対し、通常学級及び特別支援学級における授業での学習支援を行うため、学習支援員を配置する。 ○ 学校生活において介助（支援）を必要とする児童生徒に対し、特別支援教育補助員を配置して、特別支援教育体制の充実を図る。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援員の派遣 黒松内小学校 3名（うちパート2名） 黒松内中学校 1名 ○ 特別支援教育補助員の派遣 白井川小学校 1名（パート） 黒松内中学校 1名（パート） 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習障がい等により教育上特別な配慮・支援を要する児童生徒、また、学校生活において介助（支援）を必要とする児童生徒に対し、きめ細やかな個別サポート（指導・支援・介助）を行うことで、通常学級及び特別支援学級における教育体制の充実が図られた。 ○ 放課後及び長期休業中における補充的な学習サポートを行うことができた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援員の確実な採用と学校への継続的な派遣が必要である。 ○ 学習障がい等により特別な支援・配慮を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、きめ細やかな支援を続けていく必要がある。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 各学校における学習支援員・補助員の配置及び支援内容やあり方について、支援等を必要とする児童生徒の状況を的確に把握し、学校とともに関係機関等からの助言を含め、検討する必要がある。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「生きる力」の育成 学校 I C T 環境整備事業		項目番号	2-(1)-③
事業費	2, 2 2 3 千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の「教師がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に加え、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」に定められた取組をし、学習効果を期待する授業展開を図るため、学校 I C T 環境を整備する。 ○ I C T 環境整備及び情報手段の特性を理解し、授業における指導力を高める方法等を研究するため、教職員と教育委員会事務局で構成する検討部会を設置する。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業用・児童生徒用パソコン (リース) 2 8 台 ○ タブレットパソコン (リース) 4 0 台 ○ 校務用パソコン (リース) 1 0 台 ○ 町立学校メディア教育整備検討部会 3 回研修会参加 		

点検・評価	成果	○ 平成 2 8 年度から、I C T 環境整備計画に基づき授業用パソコン、生徒用パソコン、教師用パソコン及び関連備品を整備できた。				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教職員の授業における活用指導力の向上につながる取組を、校内等の研修を通じて養うことが重要である。 ○ 児童生徒の個人情報等がコンピュータ内にもあるため、使用時におけるセキュリティ規程の遵守が必要である。 ○ プログラミング教育及び全国学力調査使用機器の整備計画 (現在の機器を有効使用) を、作成する必要がある。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 い	<input type="checkbox"/> やや高 い	<input type="checkbox"/> やや低 い	<input type="checkbox"/> 低 い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高 い	<input type="checkbox"/> やや低 い	<input type="checkbox"/> 低 い
効率性		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高 い	<input type="checkbox"/> やや低 い	<input type="checkbox"/> 低 い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高 い	<input type="checkbox"/> やや低 い	<input type="checkbox"/> 低 い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽 微 な 改 善 <input type="checkbox"/> 抜 本 的 改 善 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 教職員の活用指導力を高め授業で使用することで、児童生徒の学力の向上に結びつけるとともに、教育委員会においてもその成果及び視力低下等の身体的な負担を、毎年度、検証する必要がある。

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「生きる力」の育成 学校施設整備事業		項目番号	2-(1)-④
事業費	18,291千円	担当者	総務企画	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建築年数の経過とともに腐食・劣化した学校施設等の修繕を計画的に行い、学校施設（スクールバス含む）の教育環境の向上を図る。 ○ 教職員住宅の居住環境の向上を図る。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小中学校施設修繕 黒小（防音ドア、照明設置、屋体玄関修繕等）、 白小（保健室床修繕）等 ○ 教職員住宅（大規模修繕 旭野地区1戸） ○ スクールバス（29人乗り1台） 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設等の修繕などを行うことにより、学校施設・教育環境の向上が図られた。 ○ 教職員の居住環境の向上が図られた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、学校施設、教職員住宅等の老朽化に伴い、計画的な修繕・整備計画等が必要がある。 ○ 学校の適正・快適な使用のための学校内での管理手法の引継ぎが充分されていないこともあり、教育委員会で確認する必要がある。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化に伴う学校施設（スクールバス含む）及び教職員住宅の計画的な修繕、メンテナンス、購入等を実施する必要がある。 ○ 近年では、老朽化した住宅には入居せず、単身用賃貸公営住宅や民間賃貸住宅を希望する職員が多く、空き住宅がみられるため、これら動向に留意し、住宅修繕をする必要がある。 ○ 黒松内小学校及び黒松内中学校から、夏季の高温化のため、空調設備（送風機等）の整備に関する要望が出されていることから、室温を計測し、電気料も含めた導入経費を検討する。 			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		地域と共にある教育の推進 青少年教育の充実事業 (元気キッズ、放課後子ども教室、学校支援地域本部事業等)		項目番号	2-(2)-①
事業費		4,187千円	担当	社会教育・子育て支援	
事務事業の概要	目的	○ 子供たちの「生きる力」を育むために、学校・家庭・地域などが一体となって、地域の教育資源を積極的に活用した豊かな体験活動の充実を図る。			
	実績	○ 黒松内町元気キッズクラブ運営委員会事業 (わんぱく探検団、子育てセミナー、親子体験教室、夏・冬休み子ども遊び塾等) ○ 放課後子ども教室 (黒松内地区、白井川地区) ○ 学校支援地域本部事業 (酪農職業体験、メディア教室等) ○ 森のようちえん、子どもネイチャー体験事業			

点検・評価	成果	○ 地域の学習施設や体育施設、自然資源を積極的に活用した自然・生活・社会体験活動などの機会を提供したことにより、幼児期からの子供たちの「生きる力」が育まれた。 ○ 学校・家庭・地域などの連携と理解により、地域社会が一体となった子供の健全育成が行われた。				
	課題 (問題)	○ 豊かな体験学習を促進するための指導者・スタッフが重要な役割を担うことから、指導者等の確保と養成が必要である。 ○ 「スマホ」などの普及によるメディア対策とともに、人間関係の形成の視点も含めた取組が急務であるとともに、継続した取組が必要である。				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 学校・家庭・地域等が連携しながら豊かな体験活動等を促進するための指導者・スタッフの確保と養成が必要である。同様に子どもとメディアのより良い環境づくりを進める気運づくりが保護者理解も含めて必要である。 ○ 中学生を対象とした地域に関わる学習プログラムやジュニアリーダーの養成も必要である。 ○ 国の施策の方向性やスタッフ不足もあり、放課後子ども教室と児童クラブの一体化、若しくは交流を、検討し見直す必要がある。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 総合的な学習推進事業	項目番号	2-(2)-②
事業費	479千円	担当者	学校教育
事務事業の概要	目的	<p>○ 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。</p> <p>○ 環境プログラムを実践することで、各学校で取り組まれている環境教育を、系統的で継続的に学習できる。</p>	
	実績	<p>○ 黒松内小学校：ブナ里学習(森・川・土と暮らし・大地と文化、ぶな里発表会)</p> <p>○ 白井川小学校：森・福祉・野菜と花の学校(ブナ林・お年寄り模擬体験・教材園等)</p> <p>○ 黒松内中学校：ブナの里のセミナー(ブナ・職場体験・私たちの町等)</p> <p>○ 白井川中学校：地域探究(福祉学習・産業(堆肥・酪農体験)等)</p>	

点検・評価	成果	○ 各学校がそれぞれの特色を生かした、「実践・活動テーマ」に基づき、子供たちが自ら学び、自ら考える力や問題を解決する資質や能力など、「思考力」「判断力」「表現力」などの向上が図られた。				
	課題 (問題)	○ 新学習指導要領により総合的な学習の時間が削減されたことから、各教科学習との関連性を図りながら、ブナセンター学校教育部や地域の職場・住民との効率的な関わり等を検討し展開する必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向性 (改善点等)	○ 環境教育や福祉・キャリア教育の一層の充実のほか、小学校と中学校のつながりを確認しあい、特に、中学校では「自ら考える」ことが、学習として取り入れられているかを検証する。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 コミュニティ・スクール導入事業	項目番号	2-(2)-③	
事業費	39千円	担当者	学校教育・社会教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」に転換し、学校と地域が連携・協働し、地域でどのような子どもを育てるかを目標に掲げ、持続的な地域の取組となるよう、学校運営協議会を導入（平成30年度黒松内中学校モデル校実施、平成32年度全校実施）する。 ○ 既に取り組まれている学社融合共通理解事業や学校地域支援本部等を踏まえ、黒松内町にあった組織的・継続的な連携・協働体制を確立する。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先進校視察 1回（浦幌町）、研修会参加 1回 ○ 黒松内町における学校運営協議会(モデル校)の基本事項の作成 		
点検・評価	成果	○ 先進校視察等を参考にし、本町にあった学校運営協議会の基本事項を定めることができた。		
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会のモデル校導入のための教職員を対象とした研修会の実施、住民への情報発信ができず、平成30年度の取組にあたり不十分な内容であり、黒松内中学校への負担を生じている。 ○ 教育委員会の担当職員のスキルアップが必要である。 		
	評価	必要性	□高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い □やや低い □低 い	
		有効性	□高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い □やや低い □低 い	
		効率性	□高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い □やや低い □低 い	
達成度		□高 い □やや高い <input checked="" type="checkbox"/> やや低い □低 い		
今後の方向性	事業規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡 充 □維 持 □縮 小 □休 廃 止		
	手法の改善	□維 持 □軽微な改善 <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的改善 □休 廃 止		
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校を事務局として学校運営協議会を取り組むため、学校教育及び地域学校協働本部のコーディネーター等を教育委員会に配置するなどの支援体制づくりを検討・確保する必要がある。 ○ 平成32年度からの全校実施の学校運営協議会体制（単独校設置、複数校設置）を、早期に決定する必要がある。 		
その他				

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		地域と共にある教育の推進 国際交流協力員活動事業	項目番号	2-(2)-④
事業費		5,459千円	担当者	社会教育・学校教育
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の発音や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。 ○ 国際交流協力員との交流を通し、国際理解教育や外国の生活文化への理解を深める。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教室の開催（延べ1,371人） ○ 各学校における外国語授業でのTT指導等 ○ 保育園への外国語指導 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語活動の充実のため、各学校の外国語の授業に派遣することにより、生の英語に触れる機会を通じて、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。 ○ 国際文化を理解・尊重し、国際的な知識や感覚を養い、国際性豊かな人材育成の一役を担うことができた。 				
	課題 (問題)	○ 新学習指導要領に基づく授業の充実を図るため、担当教諭との連携を密にする必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ より充実した外国語の授業が展開されるよう、各学校担当教諭との連携を密にする必要がある。 ○ 平成30年度からの小学校の外国語、外国語活動の先行実施のため、ALTの1名配置（増員）と併せ、学校はもとより教育委員会においても、先行校の授業を見学するなどその指導方法等を学び、理解する必要がある。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 小規模学校支援事業	項目番号	2-(2)-⑤
事業費	1, 593千円	担当者	学校教育
事務事業の概要	目的	○ 地域と一体となった教育活動、学校が中心となった地域活動等、小規模校の持つ教育力と地域・自然体験活動の中から「生きる力」を育もうとする自然学校とが連携し、相互教育力の相乗効果による子供たちへの影響・効果・変化などを検証する。	
	実績	○ 黒松内校区から小規模校(白小・白中)へ通学する児童生徒の送迎(5人、年間221日) ○ 自然体験活動(イエティくらぶ、長期自然体験村等)への参加	

点検・評価	成果	○ 個々に合った学習・生活指導等が可能であり課題に対し積極的に取り組み、また、目標や役割が明確となり、子供たちが責任感を持った行動をするなど、意欲的に取り組むことができた。 ○ 多様なニーズに応じた学校選択の道を確保することができた。 ○ 学校外で大人と会話する機会が少ないため、他地域、幅広い世代の多様な大人に接する良い時間になった。				
	課題 (問題)	○ 本事業による成果はあるが、平成30年度以降は現在の受託事業者では実施体制が整わない。 ○ 通学の送迎以外の自然体験活動は、プナセンターや社会教育事業でも行っているため、児童生徒への周知を行う。				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input checked="" type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 町内に現在の受託事業者以外に同様な取組を受託できる事業者がなく廃止するが、小規模校への通学者にはスクールバスで対応する。 ○ 黒松内小・中学校学区の保護者に、白井川小・中学校の魅力等を伝える機会づくりを検討する。

その他	○ 今後、小規模校の存続を検討するため、学校を含めた白井川地区の教育活動のあり方を、日常に感じている思い等を、地区住民から聞き取りする必要がある。
-----	---

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 食育振興事業	項目番号	2-(2)-⑥			
事業費	8,887千円	担当者	学校教育			
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭における食習慣の乱れが子供たちの成長阻害要因の一つとして指摘されており、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 ○ 学校給食に地場産製品・野菜などをの地産地消を取り入れるとともに、学校給食費補助金により経済面での支援をする。 				
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校給食の食材として、トワ・ヴェール製品、トワ・ヴェールⅡのパン、地場産野菜等を提供（地産地消） ○ バイキング給食（7回）、食育の日（毎月19日）の実施 ○ 学校栄養教諭による「食」に関する指導・実践、「給食だより」の発行 ○ 学校給食費補助金の支給 児童生徒135名 				
点検・評価	効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校栄養教諭による「食」に関する指導、実践を行うことにより、また、ホームページでの給食の紹介を通じて、食に対する正しい知識・重要性への理解が深まった。 ○ 安全で安心な地場産野菜、トワ・ヴェール製品、トワ・ヴェールⅡのパンの学校給食への提供により、地産地消の推進が図られた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地場産野菜等の学校給食への提供とともに、児童生徒と生産者との関わる機会をつくり、生産の場や生産に係る大変さなどの理解を深めるため、学校等との検討を図る。 ○ 地場産野菜の供給の安定化のため、生産者、商店や関係機関等との情報交換を継続する必要がある。 				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食習慣の改善を図るため、家庭・学校・地域・行政などが相互に補完・協力しながら、町の食育推進計画と連動して、取り組む必要がある。 ○ 残食量の減につながる指導・工夫を行う必要がある。 ○ 食育振興事業に係る補助金の縮減を検討する。 				
その他						

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 学校給食センター施設等整備事業	項目番号	2-(2)-⑦
事業費	2,957千円	担当者	学校教育
事務事業の概要	目的	○ 建築年数の経過とともに腐食及び劣化した給食センター施設の設備や備品の改修・更新等を行うことにより、安全・安心な学校給食の提供に努める。	
	実績	○ 施設・備品修繕（シャッター改修、調理室雨漏り修繕等） ○ 施設改善（調理室エアコン2基） ○ 備品購入（ミキサー等）	

点検・評価	効果	○ 施設小破修繕、備品等修繕、備品を購入したことにより、施設及び衛生面等での適切な管理が行われ、安全・安心な学校給食を児童生徒へ提供することができた。				
	課題 (問題)	○ 学校給食センターは、建築から約35年が経過していることから、全体的に老朽化が進んでおり、改築に向けた計画を検討する必要がある。 ○ 改築までの間、食品衛生管理指導の実施における指摘事項の改善に努める必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 老朽化している施設の改修や調理機器等の更新、異物混入防止策を計画的に実施するとともに、建替え等を視野に入れた年次スケジュール及び建設予定地の選定等の具体的検討が必要である。

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	負託に応える学校づくり 教職員の資質能力の向上事業	項目番号	2-(3)-①	
事業費	1, 397千円	担当者	総務企画・学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の改訂、教育の情報化、生活様式の変化がもたらす問題など、様々な教育課題が山積している現状において、研究・研修事業への参加により、それらの解決や教職員の指導力向上を図る。 ○ 各学校の教育目標達成に向け精力的・積極的に研修活動を推進し、学校教育に寄与するための能力開発と自己の資質向上を図る。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修センター等の各種研修会・研究会への積極的な参加 ○ 学校の研究及び教育活動上の課題解決に資する機会として、教育局指導主事を招いての研究授業等の開催 ○ 教職員スキルアップ研修会の開催（6月） 「ネットトラブルの現状と問題の本質（函館短期大学藤井教授）」 ○ 道徳教育推進校（黒小・黒中）の実践 		
点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種研修会・研究会、推進校などに積極的に参加することにより、その成果や課題の環流を相互に図りながら、個々の資質の向上と学校の研究・研修の充実が図られた。 		
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の授業力や生徒指導力の資質・能力の更なる向上を図る。 ○ 服務規律に係る教職員の意識改革を図るとともに、指導の徹底を図る必要がある。 		
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い		
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止		
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止		
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒に質の高い教育を保障するため、各種研修・研究会への積極的な参加を促し、教職員の授業力や生徒指導力の資質・能力の更なる向上を図る必要がある。 ○ 学校と教育委員会がともに、児童生徒の指導等の情報や小中一貫教育活動への移行等を踏まえた小中連携のあり方についての検討、準備等を図る必要がある。 ○ 勤務時間・休暇・職務専念義務免除等の服務規律、交通規範（飲酒運転根絶）に係る教職員への指導を継続し、徹底する必要がある。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本町の基本的な自然、産業、催事、暮らし等を理解していない教職員がいるため、地域とのつながり力を高める工夫が必要である。 			

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		負託に応える学校づくり 学校関係者評価事業		項目番号	2-(3)-②
事業費		50千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	○ 各学校の自己評価及び学校関係者による評価を実施し、公表することにより適切な説明責任を果たし、保護者・地域との連携協力による学校運営の改善と充実を図る。			
	実績	○ 児童生徒及び保護者へのアンケート調査等による自己評価 ○ 学校関係者評価委員による外部評価 黒松内校区6名、白井川校区4名			

点検・評価	成果	○ 各学校の自己評価及び学校関係者評価を実施し、公表したことにより説明責任を果たし、より信頼される学校づくりを進めることができた。				
	課題 (問題)	○ 保護者アンケート調査の回収率のより向上を図る必要がある。 ○ 学校関係者評価委員会の適切な運営を行う必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 学校関係者評価委員会の適切な運営を促すとともに、学校だよりの校下全戸配布や学社融合事業、地域学校協働本部事業の実施など、開かれた学校づくりと充実した教育活動への支援を継続して行う必要がある。 ○ 教職員評価と保護者評価に関きがある項目については、その理由を検証する必要がある。 ○ 保護者アンケート調査の自由記述欄の記載事項については、引き続き、適切な対応を行う必要がある。 ○ 今後、設置される学校運営協議会において、学校関係者評価も取り組むことから、円滑な移行に努める。			

その他	
-----	--

3 豊かな地域をつくる生涯学習

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進と文化振興 地域コミュニティー振興事業 (地域づくり、人づくりの推進等)	項目番号	3-(1)-①
事業費		5,957千円	担当	社会教育
事務事業の概要	目的	○ 生涯学習を通じた心豊かなコミュニティーの振興を図るため、地域ごとの課題の解決に関わり、住民が主体的に考え、協働して解決していくための「仕組みづくり」を進め、地域の教育力を高めるとともに、連帯と共生で活用ある学びと地域づくりを推進する。		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒松内町生涯学習センター本部事業 〔生涯学習：黒松内音頭振興、ふるさと学視察、郷土資料保存学習 生涯学習講座（4回）、事業講座（2回） など〕 ○ 黒松内町地域づくり振興協議会事業（地域づくり振興会5地区） ○ 地域づくり支援員の配置（白井川、大成・豊幌、中ノ川地区） ○ 地域づくり支援員活動業務委託事業 ○ 地域活性化補助金（1団体・あったかカフェ） ○ 地域おこし協力隊 1名 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域づくり振興会の設置及び地域づくり支援員を配置したことにより、各地域が課題解決のために、地域住民自ら地域の活性化を目指す独自活動が展開され、地域住民の親睦を深め、心豊かで潤いと活力ある地域づくりが推進された。 ○ 住民主体による地域づくりに関する意識の共有化が進み、地域が一体となった活動が展開された。 ○ 地域活性化補助金により、多様な事業が実施することができた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各団体・地域のリーダーの育成が必要である。 ○ 学習ニーズを探り、現状を分析しながら、人材づくりにつながる地域課題解決型の新たな学習プログラムづくりが必要である。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向性 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各地区における次世代を担うリーダーの育成と合わせて、活動体制（母体・地域割等）の見直しが急務であり、活動する住民が限られており多忙感が生じるため、社会福祉協議会等との連携・合流を検討する必要がある。 ○ 各地域が単独で事業を行うだけでなく、各地域が連携を図りながら学習できる機会の提供が必要である。 			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進と文化振興 世界文化遺産・西予市交流体験学習事業		項目番号	3-(1)-②
事業費		3,435千円	担当者	社会教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界文化遺産の見学等では、平和の尊さを学ぶとともに、北海道では体験できない歴史や生活文化に触れる。 ○ 姉妹市町提携を結んでいる愛媛県西予市では、黒松内町とは気候風土や生活文化が異なる地域で生徒同士の交流を行うことにより、郷土への愛着、自らを律しつつ、他人と協調する心などを育む。 			
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 訪問先 広島県広島市、愛媛県西予市 他 ○ 少年交流派遣推進事業の実施 期日 12月23日(土)～26日(火)(3泊4日) 人員 生徒(2年生)23名 引率6名 			

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習で平和について考え、現地での被爆体験者からの講話や原爆ドームなどの施設見学を通し、平和・生命の尊さを再認識するとともに、我が国の歴史や文化に直接触れることができた。 ○ 自主研修及び西予市立中学校(明浜中学校)との交流を通し、生徒の視野が広がり、責任感と協調性のバランスのとれた豊かな人間関係を養うことができた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動時間が長く、姉妹市町交流・体験時間が短いなどの時間配分に課題が残った。 ○ 社会教育事業となり、普段、交流が少ない中学生を引率するためには、十分な事前準備が必要であるとともに、職員のスキルが必要である。 				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加生徒の募集に当たり、事前にこの体験学習の目的等を紹介し、生徒本人の取組の意欲を高め、また、引率に当たり、職員のスキルアップと中学校や保護者との情報収集を含めた事前準備に努める。 			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進と文化振興 町営塾運営事業		項目番号	3-(1)-③
事業費		3,209千円	担当者	社会教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年3月策定の総合戦略内の「学習支援のための町営塾運営事業」として取組する。 ○ 進学塾や家庭教師といった学校校外の教育サービスがなく、子育て世代の「子供の将来の教育についての不安」を少しでも解消するため、地域の教育力を活用しながら、町営塾「ぶなっこ学習センター」を開設する。 ○ 学習センター運営のため、学びのコーディネーターを配置し、学習支援は、東京理科大学長万部キャンパスの大学生、町民や移住者等を募集する。 			
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びのコーディネーターを配置 1名 ○ 町営塾 開校日 14日間、大学生ボランティア登録者 11名 中学生登録者 25名 (のべ248名参加) 			

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京理科大学の協力を受け、大学生ボランティアによる学習支援体制を構築でき、14日間(11月～2月)町営塾を開設することができた。 ○ 中学生の学習の場として、また、近い年齢の学生との交流により、学習意欲の向上につながった。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登録した中学生の学習面での格差があり、基礎的な学力の不足や学び方(自習)が分からない生徒への関わり方を定める必要がある。 ○ 開校期間を長期にするため、4月から大学生ボランティア募集を行う。送迎時間が遅くなるため、職員の送迎体制を複数化とする。 				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 東京理科大学長万部キャンパスの学部体制が見直しされることから、町民等のボランティア体制づくりと、学習面も含めた中学生の指導や中学校で行われている放課後学習のあり方等を検討する。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進と文化振興 文化・芸術活動の推進事業 (文化芸術活動への参加機会の拡充)		項目番号	3-(1)-④
事業費		1,028千円	担当	社会教育	
事務事業の概要	目的	○ 生涯を通じて、心のゆとりや潤いにつながる文化に親しむことができる環境づくりを進めるため、地域に根ざした自主・自発的な文化活動を促進する発表の場や機会の提供、芸術鑑賞等の文化に触れる機会の充実を図る。			
	実績	○ 黒松内町文化団体連絡協議会事業 (総合文化祭事業、文化・余暇自主活動) ○ 黒松内町元気キッズクラブ運営委員会事業 (児童小劇場、中学生音楽鑑賞会)			

点 検 ・ 評 価	成果	○ 文化団体連絡協議会の各加盟団体は、各団体において活動の発表の場を積極的につくり、会員相互の親睦及び町外の人たちとも交流するなど、自らを高めることとともに、広く町民への参加を促すなどの活動を展開しており、心のゆとりや潤いにつながる文化に親しむことの環境が整備された。				
	課題 (問題)	○ 文化団体連絡協議会においては、新たな団体が生まれる傍ら、会員及び指導者の高齢化、後継者不足などから会を存続できず、解散又は活動の休止が見られていることから、指導者の養成、リーダーの発掘、新しい文化活動を見出すことなどが必要である。				
	評 価	必要性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
効率性		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 維 持	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休 廃 止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休 廃 止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 文化団体会員及び指導者の高齢化、後継者不足などの問題もあり、指導者の養成、リーダーの発掘を図るとともに、地域に根ざした自主・自発的な新しい文化活動を見出すことなどが必要である。 ○ 文化団体連絡協議会などが開催する文化事業や文化活動を支援するとともに、近隣町村との芸術鑑賞情報の提供や文化団体・施設などのネットワークづくりなど、広域的な文化事業の取り組みを進めていく必要がある。			

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進と文化振興 文化財の保存、活用事業 (町指定保存木、郷土資料・生活民具等)		項目番号	3-(1)-⑤
事業費		110千円	担当	社会教育	
事務事業の概要	目的	○ 国の天然記念物である「ブナ自生北限歌オブナ林」は勿論のこと、本町の貴重な文化財でもある「町指定保存木」を保存・活用してきたが、今後は、郷土資料や生活民具についても調査・整理するなど、活動幅を広げていくことで、本町の多様な自然・歴史・文化等に関する町民の理解を深める。			
	実績	○ 文化財保護委員会 1回開催 ○ 郷土資料・生活民具等収集(豊幌地区生涯学習館等で管理・展示) ○ 郷土資料の整理 ○ 町文化祭郷土資料展示(総合文化祭) ○ 町民有志による郷土資料保存サークル「ふるさと語ろう屋」活動 ○ 町指定保存木等の現状把握			

点検・評価	成果	○ 町文化祭に郷土資料の展示を、ふるさと語ろう屋とともに行ったことにより、郷土資料に対する町民の意識が高まり、また、地域文化への認識が深まり、誇りと愛着を育むことができた。				
	課題 (問題)	○ 郷土の近代生活史や文化、失われつつある生活民具など貴重な資料に目を向け、再評価や伝承につながる学習機会を提供するなど、地域文化の保存・活用に努める必要がある。 ○ 定期的に町指定保存木の現況を把握し、適切な対策を講ずるなど、保存木の管理に努める必要がある。				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 郷土に根ざした生活文化(民具、記憶等)等を後世に確実に伝えるためには、ふるさと語ろう屋活動と連携し、個人の記憶の聞き取り、また、町内に埋もれている生活民具を発掘するなど、町民が郷土の歴史や文化的遺産に触れる機会の拡充に努める必要がある。 ○ 専門家の指導の下、収集した郷土資料・生活民具等の管理(保存作業・台帳整備)を早期に取組むほか、保管・展示場所の確保及び個人保有の生活民具等の収集方法を決定する必要がある。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	生涯学習の推進と文化振興 ふれあいの森情報館活動事業	項目番号	3-(1)-⑥			
事業費	12,626千円	担当	社会教育			
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあいの森情報館は、基本的な図書館機能に留まらず、地域文化の向上を図る事業を行うとともに、町民の交流の場としての役割を併せ持つ施設であることから、一般図書資料はもとより、広範多岐にわたる学習ニーズに対応しながら町民の生活課題に関する学習や地域活動の支援を行う。 ○ 子供の読書環境を豊かにするために、情報館が中心となり、学校・家庭との連携を図る。 				
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動の推進事業（情報館友の会との協働による運営） } <ul style="list-style-type: none"> 情報誌の発行、読書まつり、読書ひろば、読書普及講演会、親子読書活動の実施 リクエストの受付、図書資料の購入、学校図書共同購入、広瀬子ども文庫基金の活用 夜間開放、レファレンス対応、HPの更新、学校等への出前読み聞かせ など 入館者数 12,238人、貸出冊数 15,319冊、視聴覚資料貸出 1,520本 インターネット利用件数 3,421件、登録者数 3,090名、蔵書数 35,353冊 ○ 情報館友の会の活動支援（研修会への参加） ○ 地域ステーション（白井川地区）の設置（利用人数 52人、貸出冊数 123冊） 				
点検・評価	効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報館友の会との協働により施設運営・事業展開をしていることから、きめ細かな町民サービスや親子・児童向けの読書活動に工夫を凝らしながら、生活の中に読書を取り入れることができた。 ○ 地域ステーションの設置で、市街地以外の町民の読書環境を整えることができたが、利用頻度が少ないため、利用増につながる工夫が必要である。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供や高齢者らの読書環境を豊かにするために、学校、保育園、福祉施設と連携し、団体貸出しや出前読み聞かせ等を積極的に実施しているが、関係機関（保健福祉課・福祉施設等）とのより緊密な連携が必要である。 ○ 利用者が固定化しつつあることから、登録者・利用率、事業内容などを検証し、自発的な学習活動支援の充実のため、図書及び情報資料の整理をするとともに転入者へのピーアールに努める必要がある。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書司書が1名体制であるため、複数名又は正職員にすることにより、司書活動の充実を図る必要がある。 ○ 人々の価値観が多様化し、町民が減少している中、入館者は増加傾向であるが、貸出冊数は減少していることから、町民ニーズに応えるため、図書以外をテーマにしたサロン活動など新たな視点での管理運営や、図書情報システムの更新を行う必要がある。 ○ 行政関係・福祉関係機関等との連携を強化しながら幼児期の家庭教育支援の一躍を担う情報の発信、町民の生活課題・地域課題、町の政策に対応できる図書資料を配備する必要がある。 				
その他						

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	生涯学習の推進と文化振興 ブナセンター活動事業	項目番号	3-(1)-⑦	
事業費	20,503千円	担当	文化振興	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブナセンターは、町の自然・文化・歴史等の情報を収集・発信する博物館的機能と、3つの工房を活用した文化活動を支える機能を有する施設であり、町内外者を対象とする交流施設として運営する。 ○ 生物多様性に富んだ自然やそこから生まれる文化等を誇りに思う町民を育てる。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ のべ来館者 18,099人 ○ 主催事業 <ul style="list-style-type: none"> 参加型調査(花ごよみ)、ブナの実調査、自然観察会、わくわく土曜日ランド、ブナセンター講座、ブナ里自然塾 等 ○ 関連事業 <ul style="list-style-type: none"> 四季のブナウォッチングツアー、黒松内生物多様性保全奨励事業、黒松内ブナ林再生プロジェクト、社会教育連携事業 ○ 学校教育支援事業 学校教育部 ○ 展示 企画展示・季節展示 ○ 調査研究・資料収集活動 共同研究、研究者住宅 		
点検・評価	効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流施設として、自然体験・工房活動等を多くの方々に提供でき、また、町民とともに観察会や植樹等の活動を通じて、自然環境保全の大切さを伝えることができた。 ○ 学校教育部では、町内外の学校等の依頼を受け、環境教育を実践した。 		
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ より多くの来館者につなげるため、職員のスキルアップとともに、観光協会や黒松内ぶなの森自然学校等の関係者との連携を積極的に図り、共同プログラムの構築や情報を発信する必要である。 ○ 町内の工房利用者、参加型調査の協力者は高齢化や減少しているため、利用者等ニーズや方法を見直しし、新たな加入につながる取組にする必要がある。 		
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止		
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止		
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブナセンター活動を常に高めるため、若手研究者への支援、大学や研究機関等のネットワーク化、アドバイザーからの助言から最新の知見を活用し、加えて調査の成果を取りまとめ、発信する必要がある。 ○ 環境教育指導員が2名体制となったことから、学芸員との業務分担を明確にし、増員となったことによる業務の実績を図る。 ○ 本町の自然を様々なかたちで楽しむ方々に応えるためには、環境情報や野外活動の共同化を含めた連携を進めることが重要であり、町内にいる関係者のネットワークづくりの中心としての機能を担う必要がある。 ○ 町民が減少している中で、活動全般の優先順位を再検証する。 		
その他				

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	生涯スポーツの振興と健康づくり 生涯スポーツの推進事業 (生涯スポーツ、自然療法)	項目番号	3-(2)-①
事業費	3, 7 2 3千円	担当	社会教育
事務事業の概要	目 的	○ 健康とスポーツの町の趣旨に添い、町民の誰もが体力や年齢などに応じてスポーツに親しみ、健康増進と体力の向上を図るとともに、青少年の健全育成、地域コミュニティーの振興を推進するため、町民が継続して様々なスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツの推進を図る。	
	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツフェスティバル運営委員会事業 { 町民ミニバレーボール大会、雪中レクリエーション、各種スポーツ教室 } 体育の日スポーツフェスティバル など ○ 体育協会事業、スポーツ少年団への補助 { 加盟団体への活動補助、町内一周駅伝大会、町民大会等 } 全国・全道大会参加経費補助、近隣町村野球大会 など ○ 各種スポーツイベント (全道シニア&レディースパークゴルフ大会、日本ハムキッズサマーキャンプ) ○ スポーツコーディネーター(スポーツ指導員)の配置 (町民の健康相談窓口の充実、健康教室や運動指導) 	
点検・評価	成 果	○ スポーツ事業の実施に当たっては、スポーツ推進委員・体育協会・スポーツ少年団・各実行委員会等と連携図り、広く町民の意見を取り入れ、参加しやすい環境づくりを図りながら事業を実施したことにより、多様なスポーツ活動等を通じて、青少年の健全育成、町民の健康保持や体力増進などに加えて、地域のコミュニティの醸成を図ることができた。	
	課 題 (問 題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町民が気軽にスポーツに親しみることができるよう関係団体等と連携を図りながら各種事業を展開しているが、参加者が固定化してきており、各年代層のニーズにあったスポーツ活動を取り入れる必要がある。 ○ 町外からも参加がある大会では、近年、参加数が減少傾向にあるため、競技内容や周知方法等の見直しを図る。 ○ プールや野球場は老朽化が進んでいることから、計画的な修繕等が必要である。また、水泳スポーツ少年団では、寿都町プールも使用している。 	
	評 価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い
	評 価	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い
評 価	効率性	<input type="checkbox"/> 高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い	
評 価	達成度	<input type="checkbox"/> 高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 休 廃 止	
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休 廃 止	
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ指導者を養成するとともに指導力の向上を図り、スポーツ教室(体験型)などを通じて底辺の拡大に努める必要がある。 ○ 活動が停滞している団体も見受けられるため活動実態を把握し、育成・支援に努めるとともに、多世代の町民にスポーツに親しむ機会づくりを積極的に行う。各スポーツ少年団やサークルでは、町内だけでは競技者の確保が難しく他町村と活動しており、これら現状の把握を行う必要がある。 ○ 本町の自然・森林環境を活かした健康づくりを、広く町民及び関係団体等に周知し、観光・地域づくりを含めた活動の拡大につなげていく。 	
そ の 他			

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	生涯スポーツの振興と健康づくり 町民体育館改修等整備事業		項目番号	3-(2)-②
事業費	60,473千円	担当	社会教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昭和50年に建設した町民体育館が老朽化及び耐震不足が判明していることから、本町らしい町民体育館の在り方を、町民によるワークショップにて検討した。 ○ 健康とスポーツの町として、町民の誰もがスポーツに親しみ、健康増進と体力の向上、地域コミュニティー等が図られる中核施設として、平成29年4月オープンした。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合体育館外構工事（駐車場・ハーブ園等） ○ 総合体育館外構実施設計 ○ 総合体育館備品購入（トレーニング機器・柔道場用畳等） ○ 総合体育館開館記念事業 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 検討委員会に構成された町民の意見を集約しながらワークショップを開催し、幅広く町民ニーズを吸い上げ、理想とする町民体育館の実現に向け、町民が主体的に活用できるよう委員同士の連帯感や思いを共有し、検討委員会としての意見を集約することができた。 ○ 平成28年度の総合体育館建設に続き、外構工事及び備品購入を行い、施設整備を終えることができた。 ○ 落成式典や講演会、みんなの体操会等の開館落成事業の実施により、多くの町民に総合体育館を紹介することができた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館の有効利用を図る上からも、各体育団体の振興、町民の健康やスポーツに取り組む意識の向上につながる施策が求められる。 ○ 運営管理を一部委託するため、円滑な運営方法を検討する。 ○ コミュニティサロンでの住民グループによるカフェ活動のように、一部の施設活用・清掃を、利用者を中心としたボランティアにて行う気運づくりを醸成する。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館は基本的なスポーツ機能のほか、子供や高齢者までの健康や体力づくり、地域コミュニティー、災害時の避難所としての機能を持つため、新しい発想を持った運営管理の方法が求められる。 ○ スポーツ推進委員は、技術指導だけではなく、スポーツ全般の振興及び体育館運営の促進等にも関わり合える体制づくりを行う。 ○ 体育館の合宿等の利用について、宿泊施設や観光協会等との話し合いの場が必要である。 ○ 避難所機能として防災担当課と調整し、運営マニュアルの作成、備蓄品等の配置をする必要がある。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯スポーツの振興と健康づくり キャンプ場活動事業		項目番号	3-(2)-③
事業費		9,395千円	担当	文化振興	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌才オートキャンプ場は、豊かな自然に囲まれ、広々としたテントサイトやたき火の使用等が特徴であり、道央圏を中心に利用者を受け入れる交流施設として運営する。 ○ 平成5年度にオープンし、経年劣化がみられる一部施設・設備等があるため、計画的な修繕・改修を行い、利用環境の向上を図る。 			
	実績	○ のべ利用者人数 5,288人、開園日数 171日			

点検・評価	成果	○ ブナセンターと連携した体験活動やオープンイベント等を実施することにより、利用者が楽しめるキャンプ場づくりを行うことができた。				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の高齢化傾向があるため、初心者層を呼び込むイベントの実施や新たなニーズの把握するなど新規利用者の増加を図る。 ○ ホームページのタイムリーな記事紹介、消耗品の配置、レンタル品の充実、テントサイト環境整備など利用者の視点を持ったサービスを検討し、全職員の意識共有の中で運営する必要がある。 ○ 町民の利用が極めて少ないことから、デイキャンプも含め手軽にキャンプ場を楽しめるイベント等を実施する。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設を運営する教育委員会職員と委託先職員が、共通理解を持ち、キャンプ場のサービス向上を高める職場環境を早急につくる必要がある。 ○ キャンプ場のほか関連施設と、地域資源や食材を活用に向けて連携を図り、利用者にとって魅力ある運営を進めるとともに、町内で体験や消費活動につながる仕組みづくりが必要である。 ○ 現在の施設では、特に管理棟デッキやバンガロー、各サイトの流し台の経年劣化が激しく、その他施設も含めた施設再整備プラン策定を、担当グループ内で検討する。 ○ 観光地域づくり推進事業でテント等のレンタル品が充実したが、貸出し及び管理業務のスタッフ不足が懸念される。 			

その他	
-----	--

4 全体評価

黒松内町教育委員会では、各教育関係機関・団体と連携を図り、協働で進める開かれた教育行政を推進することが、子供たちに「生きる力」を、地域に「自立」と「共生」の力を育む上で最も大切なことと考え、また、「みんなで支える学校、みんなで育てる子供」を合い言葉に、「教育は人づくり」であるとの認識の下、豊かな教育環境と町民のニーズに応える生涯学習の充実を図るため、各種事業等を実施してきました。

本年度は、子育て支援グループ及び文化振興グループが加わり3年目を迎え、各業務における調整・連携が図られましたが、平成30年度には子育て支援グループのうち母子保健業務が町保健福祉課に集約されます。

平成29年度教育行政執行方針に掲げた教育委員会が主管する主な事務・事業について、教育に関する事務の点検及び評価に関する実施方針（平成21年4月23日教育委員会決定）に基づき、点検及び評価を実施しましたのでその全体評価について報告します。

(1) 子供の未来をはぐくむ家庭教育

少子化や子育て世代の変化がみられますが、家庭は教育の原点であり、全ての教育の出発点であります。子供が健やかに成長できる環境づくりと多様化する子育てニーズを探り、幼児期から学齢期までの連続性のある質の高い子育て支援をめざし、母子保健、児童福祉の分野において実施してきました。

子育て世代の保育園利用者負担の軽減や児童館における児童クラブ活動等の取組をし、共働き世帯の子育て環境の安全・安心を図ってきました。

新たな支援として妊産婦の通院・不妊治療に係る助成事業や、出産祝い金を第1子からの拡充をしました。近年、低下している家庭における教育力を高める取組が急務となっています。

今後も、子育て世代の支援充実のためには、子ども・子育て会議や関係する団体等の保護者の声を聞き取り、施策への反映が求められています。子どもの少子化傾向が顕著になっていることや従事する臨時職員や有償ボランティアの不足から、施策全般の見直しが必要です。

教育委員会内に子育て世代包括支援センター（母子保健型）を設置するなど、妊娠や出産、子育て等を支援する基盤の形成を図り、また、育児不安に対する相談指導や地域子育て支援センターへの運営費補助金を継続して行い、安心して出産、子育て等ができる環境を図ってきました。

子育て期において、地域の方々との交流が少ない家庭があることからその孤立化の解消をするため、母子保健の取組において父親・母親が参加しやすい集まりの場づくりを引き続きを行い、また、保護者から要望があった子育て一時預かりサービスは本実施に移行しました。

乳幼児健診では、幼児個々の成長過程を知るため5歳児健診を実施し、特別な支援が必要である乳幼児へは、保護者への理解のもと、保育園や南後志児童デイサービスセンター、学校等と連携した早期からの支援の実施が求められています。

(2) 子供の心を育てる学校教育

社会情勢が急激に変化し、グローバル化への対応や、生活や各メディアの多様化、少子高齢化による社会活力の低下などの課題が生じてる中で、未来を担う子供たちが夢と希望を持ち、主体的に未来を切り開くことができる能力としての、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」をバランスよく身に付けた子供の育成と、その基盤となる教育環境づくりと各種事業等を実施してきました。

①「生きる力」の育成

基礎的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む態度などの「確かな学力」の定着と向上を図るため、学習指導の充実、教育環境・支援体制の充実に努めてきました。

学習支援員等は、各年度の児童生徒の現状を理解した上で、その効果的な支援方法・人員を見定め、また、効果を把握して行っていくことが課題といえます。

全国学力・学習状況調査結果では、調査年度による学力の差が見られることから、「確かな学力」の定着と向上を図るため、調査結果などを分析、児童生徒個々の能力を把握、各学校における課題や問題点を明らかにした上で、学校教育プランの見直しや修正による授業改善、家庭や地域と連携した学習習慣を含む生活リズムの改善に向けた取り組みが必要です。

平成27年度策定のICT環境整備計画に基づき、各学校には平成28年度からパソコンやタブレット等の整備が進み、ICT環境を十分活かすための教職員の活用及び指導力の向上も求められます。

児童生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、各学校施設（設備）の緊急を要する箇所の改修や修繕、スクールバス1台の更新をしました。今後は、黒松内小学校及び黒松内中学校における夏季の暑さ対策の取組が必要です。

②地域と共にある教育の推進

少子化・核家族化などの進行に伴い、人間関係や地域連帯感の希薄化が進んでいる中で、全ての教育の出発点である家庭や地域社会の教育力の向上を図るため、家庭・PTA等と連携し、学習習慣を含む生活習慣の確立、そして、親子ふれあい事業等の家庭教育支援事業やわんぱく探検団等は、地域の学習施設や自然資源を活用した取組に努めてきました。

しかし、子育て世代において、家庭教育そのものの重要性の認識の低下、社会的に孤立している状況も見られることから、連携を一層強化するとともに、

地域全体で子供を守り育てる環境づくりの一環として、安全確保につながるボランティア活動など、今後はさらに家庭や地域社会の教育力の向上に努める必要があります。

北限のブナ林をはじめとする生物多様性に富んだ自然環境や、身近に食の生産地に接することができる農村地域、四季折々の美しい牧歌的な風景や高齢者らと触れ合える充実した福祉施設など、総合的な学習では本町の地域特性を生かした授業を展開しており、今後も、環境教育や福祉教育、キャリア教育も含め、一層の充実を図り、ふるさとを愛し誇りと思う子供を育む必要があります。

児童生徒は、いかなる理由があっても、いじめを行ってははいけません。平成28年3月に策定したいじめ防止基本方針に基づく各取組や役割を個人、保護者、学校、教育委員会等が担い、地域に暮らす住民の皆さんに、温かい目で児童生徒を見守りいただける環境づくりや子ども会議を開催しました。

また、スクールカウンセラーによる児童生徒や保護者の困り感や不安に対しても学校と連携をして活用します。

本町の各学校では、既に地域に開かれた学校として行事や授業等において町民の参加をいただいておりますが、将来も組織的・継続的に取組をするため、平成30年度に黒松内中学校で学校運営協議会をモデル校として導入する予定であることから、先進校の視察を行い、まちにあった体制づくりに取組みます。

国際交流協力員の活動はすっかり定着しており、平成30年度からは小学校で外国語等を先行実施するため、ALTを1名配置し、その取組の充実が重要になります。

偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子供たちの健康を取り巻く問題が深刻化していることから、子供たちに「食」に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭等を活用しながら指導に努めてきました。引き続き、年間指導計画により適切な指導、家庭と連携した食習慣の改善に努めるとともに、食育の生きた教材となる学校給食の提供、さらに、食を通じて地域等を理解することや食文化の継承を図ることが求められます。子育て世代である保護者の経済面での支援策として、学校給食費補助金を開始し、その他の公的支援制度を含めると、全ての児童生徒に無償で学校給食を提供しています。

老朽化している学校給食センターは、他公共施設整備のため平成32年度を整備予定とし、今後は、円滑な整備を進めるために建設予定地の確保が急がれます。

白井川小学校及び白井川中学校は、白井川地区の学校としてはもとより、児童生徒一人ひとりとの触れ合いと個性を大切にしながら進められる小規模校として、また、地域・自然体験活動等を通じた学び合いから心身の健やかな成長と確かな学力、豊かな心を育む学校環境として評価され、多様な学習ニーズに応じた学校選択肢のひとつになっています。しかし、両校は本町の学校再編成要綱に定める児童生徒数を下回っていることから、地域の教育環境も踏まえて

学校、保護者、地域の方々と情報や課題の共有化を図る必要があります。

③負託に応える学校づくり

教職員の授業力や生徒指導力などの資質・能力の向上を図り、子供たちに質の高い教育を保障するため、各種研修会・研究会等への参加を促し、職務に対する自覚や意欲、学校運営への参画意識を高めてきました。

教職員は、外国語や道徳（特別の教科）、プログラミング教育が加わることから、更なる実践的指導力等の向上や教職員人事評価を用いた人材育成と、併せて、地域の教育資源や人材の有効活用を図り、その成果が児童生徒に還元され、学校運営との連携へと導く必要があります。

また、勤務時間・休暇・職務専念義務免除等の服務規律に係る教職員の意識改革、特に交通規範の遵守等の指導の徹底を継続的に図る必要があります。

保護者・地域の連携協力による学校運営及び改善と充実を図り、信頼される学校づくりを進めるため、各学校における自己評価及び学校関係者による評価を実施し、公表することにより説明責任を果たしてきました。今後も、学校関係者評価委員会の適切な運営を促すとともに、開かれた学校づくりと充実した教育活動への支援を継続し、また、学校運営協議会への円滑な移行に向けて教育委員会で検討する必要があります。

(3) 豊かな地域をつくる生涯学習

生活や価値観の多様化に伴い、暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさを求められています。文化・スポーツ・地域コミュニティ等について、地域の特性を生かした生涯学習の充実のため、各種事業を実施してきました。

①生涯学習の推進と文化振興

町民一人ひとりが学んだ成果を地域社会に生かす環境づくりに努めてきました。子どもから青年、高齢者までの多様で高度化している中、そして、グループの小規模化、異業種間交流の減少などを踏まえ、生涯学習の推進にはより町民のニーズを捉えて、意図的・計画的に施策を展開する体制づくりが必要です。

地域ごとの課題解決に積極的に関わり、町民が主体的に考え、協働により解決していくための仕組みづくりを進めるため、地域づくり振興会を設置し、また、地域づくり支援員の配置と地域おこし協力隊1名が加わり、取組みを始めて8年間経過しました。取り組みしている地域においては、地域差はあるものの一定の成果が見られておりますので、継続的な取組にするためにも次世代を担うリーダーの育成が急務です。また、地域内人口の減少も踏まえ、継続をするためには教育分野だけではなく、その他住民活動や福祉分野を集約した検討が必要な時期ともいえます。

社会教育事業に移行した「世界文化遺産・交流体験学習」は、西予市立中学校との交流や広島市における平和学習等を行い、23名の中学2年生が貴重な体験をしております。

平成28年3月策定の総合戦略に搭載された「学習支援のための町営塾運営

事業」に基づき11月に開校し、14日間で中学生はのべ248名参加があり、学びの場としての一定の成果はありますが、一部の生徒は自習する基礎的な力が不足する面がみられることから、ボランティア大学生の教え方を検討する必要があります。

生涯を通じて、文化に親しみ、心のゆとりや潤いにつながる環境づくりを進めるため、地域に根ざした自主・自発的な文化活動を促進、また、町民が文化活動や芸術鑑賞等の文化に触れる機会の提供に努めてきました。

各文化団体においては、会員の高齢化、後継者不足などから指導者の養成やリーダーの発掘などは、以前より見られていた課題ではありますが、解決までには至っておりません。

一方、町民有志による郷土資料保存サークルとともに、郷土の歴史や文化、失われつつある生活民具（記憶等を含む）などの収集・保存・活用への取り組みを、共に進める上で大きな期待を寄せつつ、その保存すべき施設の確保が急がれます。また、収集や保管等の専門的な知識がないことから、今後は専門家による指導を受ける機会を作ります。

読書は、子供の成長にとって豊かな情操や思考力・創造力などを養うために欠かせないものであり、豊富で良質な読書機会を提供するため、ふれあいの森情報館を中心に読書活動を進めてきました。ふれあいの森情報館は、情報館友の会との協働により運営することで、常に町民目線での読書活動に心がけ、身近な存在としてその地位を確立の加え、本にふれていただく機会づくりをテーマに情報受発信の拠点としての機能充実へ意識を持ち、新たな利用者を増やすためには他団体に協力をいただきサロン活動に取り組む必要があります。

ブナセンターは、博物館的施設として長年、町の自然・文化・歴史等の情報を収集、発信、体験等をする役割を担ってきました。これからも、町外者の皆さんに訪れていただくためには、収集した情報の蓄積・発信を高め、単独の取組ではなく、町内で活動しているぶなの森自然学校等の自然に係る団体・個人とのネットワークづくりを重ね、協働する力を養う必要があります。

②生涯スポーツの振興と健康づくり

スポーツは、あらゆる活動の源である健康な体力づくりであると同時に、青少年の健全育成や地域コミュニティの振興に大きな役割を果たしており、子供から高齢者までが様々なスポーツに親しみ、楽しむことができるよう関係団体と連携しながら各種事業の実施に努めてきました。

町民待望の総合体育館が、平成29年4月にオープンし、トレーニング室やウォーキングコースなどが加わったことで、新しい利用者がみられるようになり、約1万人の利用者が増加しました。スポーツインストラクター2名を委託会社からの配置を受けておりますので、その指導を受けて、引き続き多くの町民利用を図ります。

各サークル内の指導者の育成、指導力の向上を図るとともに、町民が参加しやすい環境づくりや多世代の層のスポーツ人口の拡大、町外者もサークル活動に加わり、また、町外体育施設の利用など広域的な視点も意識し、多様な利用の推進等に努める必要があります。

キャンプ場は、交流施設として多くの町外者とともに、町民にとっても親しみある施設の一つになるよう、経営ビジョンを取り入れたサービスの向上を図り、老朽化している施設改修等を検討する必要があります。

(4) まとめ

平成29年度黒松内町教育委員会が実施した主な事務・事業を全般的に見ると、教育行政に係る皆様・団体等のご協力もあり、点検の結果、ほとんどの事業が計画どおりに進めることができ、事業効果としても一定の成果が得られたものと評価しています。

しかし、いずれの事務・事業においても、人口減少や少子高齢化等の現状の中で、多様な課題を抱えていることから、この事務・事業の点検及び評価をとおして、常に事業効果や改善点などを明らかにするとともに、今後はより限られた財政状況の中、将来の望ましい教育行政をしっかりと見定めてまいりたいと考えています。

また、学校運営協議会の設置を含めた地域の力を行政・学校運営にいただくなど、町や地域の人口が減少を続ける中で、新たな仕組みづくりを町部局や他機関・団体とともに検討する場づくりが求められます。

以上、平成29年度教育行政執行方針に沿って、事務・事業の総括責任者としての全体評価といたします。

平成30年12月

黒松内町教育委員会
教育長 内山 哲 男

参 考 资 料

1 教育委員会組織機構図 (平成29年4月3日現在)



2 教育関係予算の状況（当初予算）

平成29年度における教育予算の総額は401,888千円であり、町の一般会計全体に占める割合は10.4%で、前年度比1,050,383千円の減額となっている。これは、総合体育館及び教員住宅の建築が終えたことが主な理由である。

(単位：千円)

予 算 科 目 (項・目)		29年度予算	28年度予算	比 較	備 考
児童福祉費	児童福祉総務費	74,584	74,469	115	
保健衛生費	保健活動費	7,405	8,037	△632	教育委員会分のみ
教育総務費	教育委員会費	1,204	1,219	△15	
	事務局費	25,580	61,423	△35,843	
	スクールバス管理費	20,846	12,179	8,667	
	小 計	47,630	74,821	△27,191	
小学校費	学校管理費	25,252	27,248	△1,996	
	教育振興費	5,812	5,906	△94	
	小 計	31,064	33,154	△2,090	
中学校費	学校管理費	25,755	29,236	△3,481	
	教育振興費	6,381	8,768	△2,387	
	小 計	32,136	38,004	△5,868	
社会教育費	社会教育総務費	13,072	9,677	3,395	
	総合町民センター費	10,420	10,722	△302	
	情報館管理費	12,925	15,891	△2,966	
	生涯学習館管理費	3,335	5,547	△2,212	
	文化財保護費	209	209	0	
	ブナセンター費	22,214	18,160	4,054	
	子育て支援費	5,356	4,715	641	
	放課後子ども活動費	2,805	2,631	174	
	地域づくり活動費	6,014	6,684	△670	
	小 計	76,350	74,236	2,114	
保健体育費	保健体育総務費	5,082	9,377	△4,295	
	体育施設費	22,958	6,783	16,175	
	体育館建築費	63,186	1,097,600	△1,034,414	

(単位：千円)

予 算 科 目 (項・目)	29年度予算	28年度予算	比 較	備 考
学 校 給 食 費	32,239	23,890	8,349	
キャンプ場管理費	9,254	11,900	△2,646	
小 計	132,719	1,149,550	△1,016,831	
総 合 計	401,888	1,452,271	△1,050,383	

3 学校の児童生徒・教職員数

(1) 児童生徒数（4月1日現在）

（単位：人）

学 校 名		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
黒松内小学校	H 27	24	20	15	20	32	27	138
	H 28	26	24	20	15	21	33	139
	H 29	17	26	23	21	17	22	126
白井川小学校	H 27	0	0	2	3	1	3	9
	H 28	3	0	0	2	3	1	9
	H 29	0	3	0	0	2	3	8
小学校 計	H 27	24	20	17	23	33	30	147
	H 28	29	24	20	17	24	34	148
	H 29	17	29	23	21	19	25	134
黒松内中学校	H 27	19	26	30	/	/	/	75
	H 28	32	22	27	/	/	/	81
	H 29	35	30	22	/	/	/	87
白井川中学校	H 27	1	0	1	/	/	/	2
	H 28	0	1	0	/	/	/	1
	H 29	1	0	1	/	/	/	2
中学校 計	H 27	20	26	31	/	/	/	77
	H 28	32	23	27	/	/	/	82
	H 29	36	30	23	/	/	/	89
総 合 計	H 27	/	/	/	/	/	/	224
	H 28	/	/	/	/	/	/	230
	H 29	/	/	/	/	/	/	223

(2) 教職員数（4月1日現在）

※（ ）内は産休又は育休の職員数、外数、※町職員は学習支援員

（単位：人）

学 校 名		教職員	養 護	事 務	栄 養	期限付	町職員	計
黒松内小学校	H 27	15(1)	1	1	1	—	3	21(1)
	H 28	12(1)	1	1	1	1	3	19(1)
	H 29	12(1)	1	1	1	1	3	19(1)
白井川小学校	H 27	4(1)	—	—	—	3	—	7(1)
	H 28	5	1	—	—	1	—	7
	H 29	6	1	—	—	1	—	8
小学校 計	H 27	19(2)	1	1	1	3	3	28(2)
	H 28	17(1)	2	1	1	2	3	26(1)
	H 29	18(1)	2	1	1	2	3	27(1)
黒松内中学校	H 27	14	1	1	—	—	2	18
	H 28	14	1	1	—	1	2	19
	H 29	12(1)	1	1	—	1	1	16(1)
白井川中学校	H 27	3	—	—	—	1	—	4
	H 28	4	—	—	—	—	—	4
	H 29	5	—	—	—	—	—	5
中学校 計	H 27	17	1	1	—	1	2	22
	H 28	18	1	1	—	1	2	23
	H 29	17(1)	1	1	—	1	1	21(1)
総 合 計	H 27	36(2)	2	2	1	4	5	50(2)
	H 28	35(1)	3	2	1	3	5	49(1)
	H 29	35(2)	3	2	1	3	4	48(2)

4 各施設利用者数

(1) 総合町民センター（平成28年度に、保育園改修のための町民センター利用は未集計。各年度、老人研修室に放課後子ども教室分を集計(件数は未集計)）
(単位：件・人)

区 分	大ホール		配膳室		控室		青年研修室		婦人研修室	
	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者
H27年度	89	7,781	11	350	125	2,316	46	2,283	176	1,638
H28年度	205	7,858	14	181	183	2,259	54	2,831	176	1,649
H29年度	75	5,048	11	145	152	1,897	33	1,583	162	1,710

区 分	生涯研修室		老人研修室		調理実習室		合 計	
	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者
H27年度	92	2,499	191	5,538	54	688	784	23,093
H28年度	49	1,801	111	7,043	29	471	821	24,093
H29年度	30	1,774	45	3,955	32	618	540	16,730

(2) ふれあいの森情報館 (単位：人)

区 分	開館日数	入館者数	蔵書数	貸出冊数		登録者数		
				総数	1日平均	町内	町外	合計
H27年度	289	9,839	32,618	19,538	67.6	2,269	716	2,985
H28年度	291	11,673	33,946	17,175	59.5	2,341	747	3,088
H29年度	291	12,238	35,353	15,319	52.6	2,343	747	3,090

(3) ミニビジターセンター (単位：人)

区 分		町 内		町 外		町内 団体	町外 団体	その他	合 計
		大人	小人	大人	小人				
H27年度	宿泊研修	10	—	44	—	—	82	—	136
	日帰研修	—	—	—	—	—	10	—	10
	計	10	—	44	—	—	92	—	146
H28年度	宿泊研修	4	—	78	—	20	55	—	157
	日帰研修	—	—	—	—	24	—	—	24
	計	4	—	78	—	44	55	—	181
H29年度	宿泊研修	12	—	84	—	11	42	—	149
	日帰研修	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	12	—	84	—	11	42	—	149

(4) 各運動施設 (平成29年度、パークゴルフ場(歌才)は、芝生改修のため未利用)

(単位：人)

区 分		利 用 者 数		合 計	備 考
		町 内	町 外		
野 球 場	H27年度	3,945	352	4,297	
	H28年度	1,377	1,480	2,857	
	H29年度	1,528	2,006	3,534	
多 目 的 広 場	H27年度	6,640	0	6,640	
	H28年度	2,510	378	2,888	
	H29年度	2,940	830	3,770	
テニスコート	H27年度	16	42	58	
	H28年度	39	22	61	
	H29年度	15	27	42	
町 民 プ ー ル	H27年度	3,017	170	3,187	
	H28年度	2,666	200	2,866	
	H29年度	2,572	83	2,655	
パークゴルフ場 (歌才)	H27年度	1,227	1,854	3,081	利用料納入者
	H28年度	691	580	1,271	平成29年度は、芝生 張替工事のため、未使 用
	H29年度	-	-	-	
パークゴルフ場 (道の駅)	H27年度	455	1,257	1,712	
	H28年度	266	734	1,000	利用料納入者
	H29年度	1,001	975	1,976	
東 山 ス キ ー 場	H27年度	-	-	938	
	H28年度	-	-	1,294	
	H29年度	-	-	938	
H27~H28 町 民 体 育 館 H29 総 合 体 育 館	H27年度	-	-	16,574	平成28年度は、体育 館建設のため、黒松内 小・中学校の体育館開 放の利用者数
	H28年度	-	-	5,029	
	H29年度	-	-	26,496	

(5) ブナセンター

(単位：人)

区 分	ブナホール	陶工房	木工房	食工房	その他	イベント	合 計
H27年度	5,457	888	837	470	9,336	3,578	20,566
H28年度	4,528	946	850	375	6,620	2,962	16,281
H29年度	5,110	702	871	419	8,295	2,702	18,099

※イベントは、野外活動を含む

(6) オートキャンプ場

(単位：人、件)

区 分	のべ実利用者数	使用料人数	使用料件数	備 考
H27年度	5,048	2,984	1,065	
H28年度	5,377	3,244	1,196	
H29年度	5,288	3,394	1,254	

※使用料人数と使用料件数は、使用料の対象を集計